

保健福祉常任委員会行政視察委員長報告

- 1 視察期日 平成25年10月25日（金）
- 2 視 察 地 鴻巣市・群馬県桐生市
- 3 出席委員 保 角 美 代、渡 邊 良 太、湯 澤 美 恵、
大 澤 芳 秋、加 藤 勝 明、金 子 眞 理 子
- 4 視察項目
〔鴻巣市〕人口11万9,978人（平成25年10月1日現在）
・ 夢工房翔裕園の生産活動における就労訓練事業について
〔桐生市〕人口12万539人（平成25年10月1日現在）
・ 高齢者介護サポーター事業について

はじめに**鴻巣市**の視察概要から報告いたします。

「夢工房翔裕園の生産活動における就労訓練事業」について

障がい者就労支援施設「夢工房翔裕園」は、精神障がいのある方などが社会と接する機会を増やし就労につなげることを目的に平成22年5月に社会福祉法人元気村が開設した施設です。就労に必要な知識の習得及び能力向上のために必要な訓練等を行い、2年以内の就労を目指す就労移行支援事業とすぐに就労することが困難な方が働き収入を得る非雇用型の就労継続支援B型事業を行っています。

この施設は、パンを製造販売できる作業室やDM貼り・広告折込などの内職を行う作業室、パソコンの基本的操作や広告・名刺の作成を行う作業室があり、利用者は就労訓練を行うことができます。

平成25年6月から新しい取組みとして練習で傷んだ硬式野球ボールの再生する事業を始めました。エコボールと名付けられた取組みで、利用者は1時間で4～6個を仕上げることができ、縫い直して使えばボールの寿命は3倍になります。選手の活躍を願いながら補修作業をしている施設の利用者にとっては、社会とつながる励みになります。一方、野球部はお金をかけずにボールを使い続けられる上、障がい者の就労支援に役立ち交流もでき、生徒が道具を大切にすると取組みを後押ししています。現在、この事業は、県内野球部4校、大学野球部5校から取組みの協力をいただいています。

当初の目的である就労支援については、平成24年度10人中6名が就労につながることができました。今後も、施設の利用者一人ひとりに合った訓練を行い就労の支援をしていくとのことでした。

次に**桐生市**の視察概要について報告します。

「高齢者介護サポーター事業」について

桐生市は平成25年4月現在、高齢化率30.32%と群馬県内12市中1位と高

い数値となっています。高齢者の割合が高い桐生市では、一人暮らしの高齢者が増加し、閉じこもりがちになり孤独となってしまう傾向にあります。

そこで、65歳以上の高齢者が介護サポート活動を通じて、地域貢献、社会参加を奨励するとともに自らの介護予防を推進し、元気に暮らせる地域社会づくりを目的として、桐生市と桐生市社会福祉協議会が連携し、平成22年度から高齢者介護サポーター事業が始まりました。

高齢者介護サポーター事業は、介護サポーターの登録後、特別養護老人ホームなどでサポート活動を行った場合、1時間あたり1ポイント（1日2ポイントが上限）をもらえます。翌年度に貯まったポイントに応じて最大5,000円の交付金を受け取ることができます。

桐生市では、サポート活動を開始する前に、参加者全員を対象にサポーターとしての心得や高齢者の心身の特徴、感染症予防などの基礎知識の習得を図るための研修を行っています。また、活動と並行して、認知症の基礎知識や認知症高齢者へのサポートの仕方など技術向上の研修もしています。サポート活動の参加者は、平成24年度の実績で109人となっています。

今後は、生活・介護サポーターの養成講座の開催や認知症への理解が成熟し、地域での見守りの需要が高まった場合は、在宅サービスにも活動の範囲を広げていくとのことでした。

以上が視察の概要ですが、今後、本市において参考となる事項については、ご検討いただきますよう要望し、報告といたします。

なお、詳しい資料は、議長への視察報告書に添付されていますので、必要な方はご覧いただきたいと思います。

平成25年11月28日

保健福祉常任委員会
委員長 金子 真理子

北本市議会議長 福島 忠 夫 様